

20260924_【閑話休題】体育大会に向かって

2学期も始まって1カ月たちました。

グラウンドで走っている姿や、各クラスの応援旗が着々とできているのを眺めたりしています。学年での目標を廊下に張り出していたりして意気込みを感じます。

また、先日は、初めて「縦割り応援」の練習を体育館に見に行きました。それぞれの学年のクラスのメンバーが集まって、一生懸命に、でも楽しそうに取り組んでいました。

すでにグラウンドへの「土入れ」や「にがりまき」も終わり、いよいよ体育大会が近づいてきたのだなと実感しています。少し天候が心配ですが、九中に赴任して初めての体育大会。どんな姿が見られるのか、ワクワクしています。

でも、当日の姿だけを楽しみにしているわけではありません。当日までにどんな姿が見られるのか、そして、終わった後は、どんな姿になるのか、とても楽しみです。

さて、体育大会では、どんなことに力を注ごうと考えていますか。

人には得意なものもあれば、苦手なものもあり、取り組み方も人それぞれです。

応援旗の作成に取り組む人がいれば、走ることやダンスに汗を流している人がいて、本当にいろいろな取り組みがあり、かかわり方も千差万別だなと感じています。

そんな中で体育大会への取り組みで大切にしてほしいと思っていること、それは、「全力を尽くすこと」「全力を尽くしている人には結果はどうあれ、声援と拍手を送ること」の二つです。

体育大会では、当然、勝つことにはこだわってほしい。でも、「勝ち負けは時の運」と言います。決められたルールを守って、フェアプレイで、そして全力で取り組んでほしいと思います。どんな結果であれ、自分で「やり切った」と思えるようにしてほしい。

そして、結果ではなく、やり切った人には、声援と大きな拍手でリスペクトを表してほしいと思っています。

さらに言えば、団体種目などを通して「協力することで生まれる力」「つながる大切さ」を実感してほしいと思います。

今、教育の中では「個を大切に」「個別最適化」ということばがよく出てきます。と同時に「協働的な学び」「協働的な学習」も大切だと言われます。

人が一人でできることは限られています。でも、協力してくれる人、サポートしてくれる人がいれば、できることも増えてくる、協力すれば大きなこともできる、ということを実感してほしいと思います。

お互いが支えあうことの意義を実感として感じ、考えられるまたとない機会です。

閉会式で、自分だけでなく、自分のクラスだけでなく、自分の学年だけでなく、すべての人に大きな拍手が自然に送られるようになればと思って、日々の取り組む様子を見えています。